

地域とともにある学校づくりに関する調査報告

清國祐二

はじめに
研究の方法
講義の有意義率
テキストマイニングによる分析結果
おわりに

はじめに

令和元年度、独立行政法人教職員支援機構（以下、機構）において「コミュニティ・マネジメント」という新規に開設する講義を筆者が担当することとなった。学校教育の中にコミュニティ・マネジメントという言葉が将来的に定着するのかどうかははっきりしていない中での船出であり、手探り状態でコンテンツを考えた。そもそも学校がコミュニティをマネジメントできるのか、越権行為ではないのか、という懐疑的な思いも頭をもたげた。それでも「地域とともにある学校」と「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」はセットとなって現場に降りている。問題提起も含めて講義を担当した。

筆者はこれまで社会教育の立場で、地域が学校にどう向き合うべきかという視点から公民館やコミュニティセンター等の実践に関与してきた。また、学校支援ボランティアや地域コーディネーター等の地域住民を対象とした研修には携わってきた。それが今回は、学校の管理職並びに事務職員を対象に「学校が地域にどう向き合うべきか」という講義をするのである。スクール・マネジメントを熟知していない状況で、地域の側から学校を見たときの「見え方」と地域の思いを柱とし、学校への期待をまとめてみた。加えて、仕事として地域と関わる教職員とボランティアに学校や子供と関わる地域住民とでは立場が大いに異なるため、地方創生（地域の持続可能性を高める学校の役割）の観点も織り込んだ。これらのコンテンツが学校関係者にどのように映るのか、非常に興味を感じた。

本稿は、校長と事務職員が筆者の講義を受けた後に記述するアンケートを手がかりに、何を学び、何を感じたか、を探りたい。アンケートには4段階評価の満足度と自由記述がある。この自由記述を、テキストマイニングを使い分析を行った。地域と学校との関係は今後どのような形で構築していけばよいのかを探る基礎資料としたい。

研究の方法

はじめに示したとおり、分析の素材として、受講者への講義アンケートを利用する。アンケートの中の自由記述であるため、試験やレポート等とは異なり、受講者にとってはそれをもって評価がなされる認識はない。そのため、文字数や内容についてはかなりばらつきが見られるが、身の丈の表現であるとも受け止められる。機構としては、アンケートと受講者との紐付けはしているが、筆者には知らされていない。また、テキストマイニングを使い統計的に処理するため、個人が特定されることはない。

表1：分析対象とした校長・事務職員数と講義実施日

実施日	校長	事務職員	合計
令和元年6月11日	65名	109名	174名
令和元年6月25日	50名	77名	127名
令和元年10月8日	51名	111名	162名

アンケートの自由記述の分類や分析については、テキストマイニング・ソフトウェアの"TRUE TELLER ver.6" (野村総合研究所) を用いた。テキストマイニングとは、テキスト(文章)をマイニング(発掘)することであり、定型化されていない文章の集まりの中から価値ある情報を掘り出すといった意味が込められている。その際に、自然言語解析の手法を用いて単語やフレーズに分割された言葉を、出現頻度や相関関係などから有用な情報を抽出するシステムとなっている。

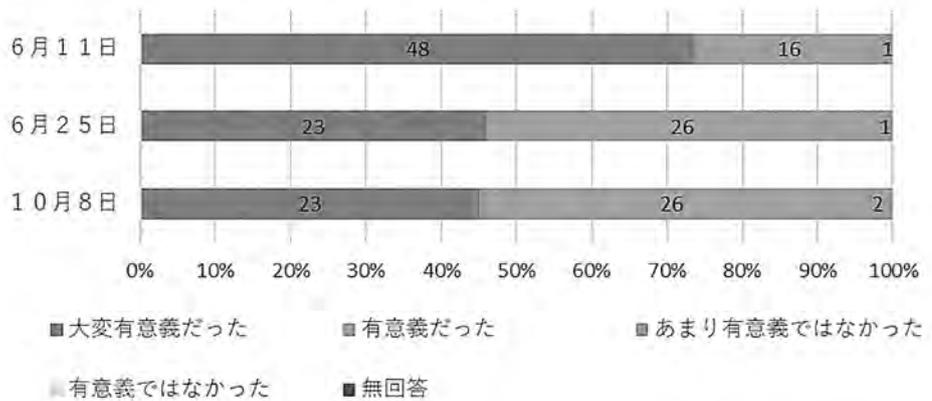


図1 講義の有意義率 (校長)

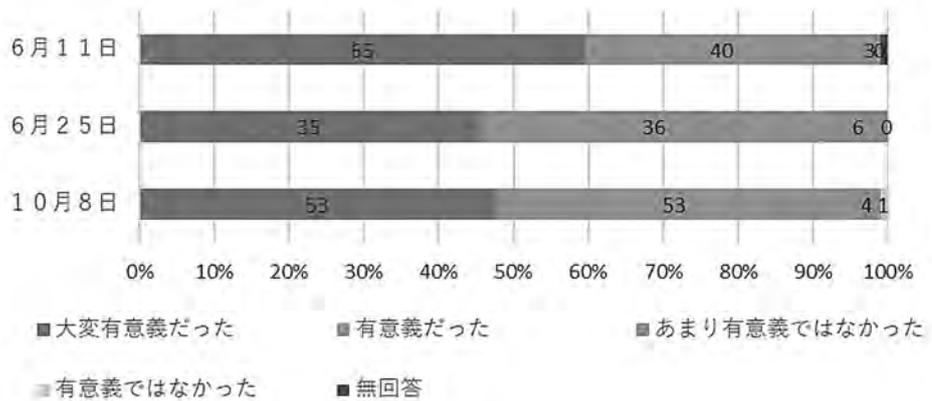


図2 講義の有意義率 (事務職員)

講義の有意義率

まず、受講者の満足度を各回で示したグラフである。校長も事務職員も第一回目の講義が最も高い満足度となっている。受講者は毎回異なっているため、単純に比較することはできないが、講義内容は受講者の反応を見ながら確実に改善を図っているのだが、それが必ずしも満足度となって現れていない。講義の内容以外の要素が満足度に大きな影響を与えているのであろうか。有意義率という観点では、すべての回で90%を上回っており、受講者からは一定の評価が得られたと考えている。

テキストマイニングによる分析結果

1) 自由記述に見られる品詞別単語使用頻度

基礎分析として、品詞別単語使用頻度(出現数)と自由記述数(件数)を出してみた。書き込みを分析して抽出された名詞、形容詞、動詞のうち、意味をもたない単語を削除した上で、上位20位までを載せたものが表2及び表3である。

校長も事務職員も上位に位置する言葉は共通している。名詞で言えば、「地域」「学校」「子ども（子供）」「コミュニティ」「教育」が上位6位を占め、順位までもが同じである。形容語（形容詞と形容動詞が同一のカテゴリーとなっているため、ここでは形容語に統一する。）で言えば、「大きい」「必要だ」「重要だ」「小さい」「大切だ」「持続だ」の6つの単語が上位7位までに入っており、多少順位は異なるが共通している。動詞で言えば、「ある」「考える」「感じる」「思う」の4つの単語が順位は違えども、一致している。

名詞、形容語、動詞を独立した順位で見ただけでは、それらの言葉がどのような文脈で使われているかが定かではない。修飾語は削ぎ落として、体言と用言の関係をシンプルに見ていく必要がある。それが「係り受け」であり、次の段落で見たい。

表2：自由記述に見られる品詞別単語使用頻度（校長）

	名詞	出現数	件数	形容語	出現数	件数	動詞	出現数	件数
1	地域	406	152	大きい	32	31	ある	85	59
2	学校	258	125	必要だ	26	23	考える	73	50
3	子ども	116	86	重要だ	19	17	感じる	51	43
4	コミュニティ	89	66	小さい	14	14	思う	50	39
5	教育	54	42	大切だ	16	14	理解する	24	21
6	マネジメント	47	39	具体的だ	13	13	できる	23	20
7	本校	44	39	持続だ	13	13	関わる	22	20
8	連携	54	39	どのような	13	12	育てる	22	17
9	課題	44	36	様々だ	9	9	学ぶ	18	17
10	今後	31	27	ない	9	8	向ける	18	17
11	活動	27	24	明確だ	8	8	つながる	16	16
12	講義	26	23	強い	8	7	する	15	15
13	スクール	25	22	新しい	8	7	進める	17	15
14	校長	23	21	しっかり	6	6	開く	14	14
15	視点	27	21	難しい	6	6	目指す	14	14
16	社会	25	20	いい	4	4	果たす	13	13
17	能力	33	20	希薄だ	4	4	持つ	13	13
18	人	21	19	不可欠だ	4	4	担う	13	13
19	力	24	19	よい	3	3	わかる	12	11
20	関係	22	17	印象的だ	3	3	引き受ける	11	11

表3：自由記述に見られる品詞別単語使用頻度（事務職員）

	名詞	出現数	件数	形容語	出現数	件数	動詞	出現数	件数
1	地域	713	254	大きい	52	45	ある	145	104
2	学校	533	240	必要だ	46	42	思う	126	97
3	子ども	195	150	小さい	43	41	感じる	97	85
4	コミュニティ	143	104	重要だ	40	37	考える	95	76
5	教育	92	69	持続だ	27	26	関わる	52	45
6	職員	77	65	ない	29	25	できる	48	43
7	連携	75	62	大切だ	18	18	開く	40	40
8	事務	71	59	どのような	17	16	持つ	37	35

9	役割	55	49	大事だ	17	16	引き受ける	34	31
10	スクール	49	45	多い	17	14	育てる	31	29
11	課題	52	45	強い	13	13	理解する	29	29
12	力	52	43	難しい	13	13	わかる	30	28
13	マネジメント	52	42	積極的だ	14	12	つくる	29	28
14	人	59	42	具体的だ	12	11	する	29	26
15	活動	50	41	いい	10	10	つながる	24	24
16	責任	43	36	印象的だ	10	10	学ぶ	29	24
17	損	40	36	よい	8	8	向ける	24	21
18	自分	42	35	様々だ	7	7	残る	23	21
19	今後	34	33	興味深い	6	6	果たす	22	20
20	家庭	32	30	新たに	6	6	連携する	21	20

2) 自由記述に見られる係り受け使用頻度

主語・目的語と述語の「係り受け」の関係を捉えることで、受講者の使っている言葉の意図をくみ取ることが可能となる。ここでは、表2及び表3の名詞の上位にある単語をキーワードとしてランキングしたもの（表4及び表6）とその他の頻出単語（表5及び表7）とに分けて表を作成してみた。

まず、校長の自由記述の中からキーワードの係り受けを見てみる。表4の通り、「(地域に)開かれた学校」「(地域とともに)ある学校」「学校はできる」「学校が担う」「学校が目指す」「地域に開かれた」「地域と(ともに)ある」「地域とつながる」「持続可能な地域づくり」「子供を育てる」などがトップ10に入った。表6は事務職員の自由記述であるが、大きな開きはなさそうだ。続いて、その他の係り受けの上位に「損」や「得」が入っている（表5及び表7）が、筆者の講義の中で「人は損得勘定で動いてしまいがちであるが、住みやすい地域にするためには『小さな損を引き受けて、大きな得を生み出す』ようにしなければならない」と発言したことが強く印象に残ったようだ。実際にごみの落ちていないきれいな地域は、ボランティアに清掃している人がいたり、地域で一斉清掃の日を設けたりすることで保たれているのである。うっすらとはわかっていることではあっても、覚醒させない方が生きやすいという意識ではなかったか。自分の地元に関わらない教職員は多くいて、それに後ろめたさを感じていたり、目を背けたりしている教職員が多いのが実態である。それに加えて、「給料をもらいながら仕事をする人（ここでは教職員）の方が、実は損得勘定で仕事を引き受けたり断ったりしている」説明にはっとされたことが影響していると考えられる。

表4：キーワードと述語の係り受け（校長）

	キーワード	述語	件数
1	学校	開く	11
2	学校	ある	10
3	地域	開く	10
4	地域	ある	8
5	地域づくり	持続だ	8
6	子供	育てる	7
7	学校	できる	6
8	学校	担う	6

表5：その他の単語と述語の係り受け（校長）

	その他	述語	件数
1	損	小さい	11
2	得	大きい	11
3	損	引き受ける	10
4	必要	ある	10
5	重要性	理解する	7
6	得	つくる	7
7	印象	残る	5
8	重要性	感じる	5

9	学校	目指す	5
10	地域	つながる	5
11	地域	育てる	5
12	地域	考える	5
13	地域	目指す	5
14	地域	理解する	5
15	コミュニティ	関わる	4
16	学校	考える	4
17	地域	できる	4
18	学校	できる (否定)	4
19	学校	育てる	4
20	学校	関わる	4

9	必要性	考える	5
10	ヒント	いただく	4
11	課題	大きい	4
12	課題	抱える	4
13	人	変わる	4
14	責任	果たす	4
15	必要性	感じる	4
16	役割	果たす	4
17	役割	考える	4
18	役割	担う	4
19	連携	進める	4
20	スクール	導入する	3

表6：キーワードと述語の係り受け（事務職員）

	キーワード	述語	件数
1	地域	開く	35
2	学校	開く	32
3	子供	育てる	18
4	学校	できる	15
5	地域	できる	15
6	地域	ある	11
7	地域	関わる	11
8	学校	ある	10
9	地域	協働する	10
10	地域	連携する	9
11	地域づくり	持続だ	9
12	学校	できる (否定)	8
13	学校	関わる	8
14	地域	持つ	8
15	学校	感じる	6
16	学校	思う	6
17	学校	目指す	6
18	学校	連携する	6
19	地域	育てる	6
20	地域	考える	6

表7：その他の単語と述語の係り受け（事務職員）

	その他	述語	件数
1	損	小さい	33
2	得	大きい	30
3	損	引き受ける	29
4	必要	ある	22
5	得	つくる	21
6	必要性	感じる	12
7	印象	残る	10
8	責任	果たす	9
9	職員	関わる	8
10	役割	果たす	8
11	意識	持つ	7
12	職員	できる	7
13	言葉	残る	6
14	身	つける	6
15	人	いる	6
16	損	大きい	6
17	必要	考える	6
18	無責任	関わる	6
19	力	つける	6
20	課題	思う	5

おわりに

本稿は、コミュニティ・マネジメントという、学校にとっては未知の概念をどのように受け止めているのか、校長と事務職員の自由記述を題材として測定を試みた。講義の有意義率からも想像できるように、受講者は講義の内容については概ね好意的に受け止めていた。それを受けて、キーワードと述語の係り受けも、その他の単語と述語の係り受けも、前向きな結びつきが大半を占めていた。それでもなお、コミュニティ・マネジメントの学校経営における定義や地域への関与の度合い、地域の持続可能性への寄与等、

明確にしきれていない。加えて、働き方改革が教員を学校内の業務へ専念する方向へ動いてしまうと、地域と学校との連携・協働の流れは一気に鈍化することも予測される。一方で、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、また地方創生による地域の維持のためには、地域課題に寄り添いつつ、当事者意識のもとで学びを深めることがとても重要となる。現代社会に顕在化してきた繊細な問題との関係もあり、学校現場の混乱が生じないように丁寧に、かつ迅速に体制を整える必要がある。